令和7年度

年　　報

第　33　号



福井県自然保護センター

はじめに

令和７年度は、多くの月で平年を大きく上回る高温となりました。気象庁によると、全国で夏は記録的な高温となり歴代最高気温を観測し、猛暑日や４０℃以上の延べ地点数の記録も更新したとのことです。また、１月・２月は比較的高めの気温で推移し、当センターのある南六呂師でも積雪が比較的少ない冬となりました。

当センターは平成２年７月に開設され、令和７年度で開設３６年目を迎えました。開設以来、福井の山や田んぼに生息している動植物の展示、自然観察の森ガイドや自然再生活動、天体観望会やプラネタリウムの上映、資料収集や調査研究などの事業を開催し、本県の自然の素晴らしさや楽しさを広く県民の皆様にお伝えしています。

また、企画展として「はじめよう！自然体験」「ふくい星空写真展」「恐竜の子孫！福井の鳥たち」を開催するとともに、時機に応じたミニ企画展を開催するなど本県の自然保護、天文観察などの取組への理解促進を図りました。

天文分野では、令和３年度から実施している「星空案内人（星のソムリエ®）養成講座」を講師の方々の多大なご協力をいただきながら開催し、新たに６名を星空案内人に、１８名を準案内人に認定しました。南六呂師は令和５年に全国４か所目の星空保護区に認定され、令和７年にはミルク工房奥越前の隣にオートキャンプ場SORAtoDAICHIがオープンしたことから、今後県内外からのお客様に美しい星空を見ていただく機会が増えることが期待されます。

自然環境分野では、ツキノワグマなど大型野生鳥獣の捕獲・放獣に関わる指導や問い合わせへの対応、大量出没を予測するためのブナ科樹木の豊凶調査、鳥類保護行政の基礎資料とするための渡り鳥保全調査等を実施したほか、国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業等を実施しました。

また、勝山市にある池ケ原湿原は、６月に「未来に残したい草原の里１００選」に選定され、令和８年３月には、「自然共生サイト」の認定を受けました。今後も生物多様性の保全を図るため、池ケ原湿原保全・活用協議会による草刈りなどの活動を継続していきます。

この年報は、このような当センターの１年間の事業活動を取りまとめ記録しておくために毎年発刊しています。今後とも、福井の豊かな自然や美しい星空を私たちの子孫に継承していけるよう、自然との「共生」に向けて活動を続けてまいります。

最後に、日頃より当センターの事業を支えていただいている運営会議委員、自然観察指導員の会、各天文クラブをはじめとする関係団体の皆様など多くの方々に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

令和８年３月

福井県自然保護センター所長　田　原　雅　典

目　　次

Ⅰ 自然保護センターの概要 …… 1～3

1　施設の概要 …… 1
2　施設の平面図・面積表 …… 2
3　組織と事業概要 …… 3

Ⅱ 自然保護センターの事業の展開 …… 4～25

1　展示事業 …… 4～5
（1）常設展示　（2）特別展など　（3）生体展示
（4）冬の野鳥レストランの開設　（5）入館者数

2　指導普及事業 …… 6～17
（1）自然観察会などの企画開催　（2）天体観望会などの企画開催
（3）館内・自然観察の森ガイドの実施（4）団体向け工作プログラムの実施
（5）特別企画などの開催　（6）生き物百葉箱事業
（7）インターネットによる自然情報の発信
（8）広報誌の発行　（9）傷病鳥獣救護
(10) 自然に関する相談・対応
(11) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア（重点活動地域）への支援事業
(12) 侵略的な外来種防除対策

3　研修養成事業 …… 18
（1）星空案内人（星のソムリエ®）資格認定講座
（2）Fukui Star Guide Kidsチャレンジ　（3）研修生受け入れ

4　資料収集事業 …… 19
（1）資料登録済標本資料　（2）資料登録済視聴覚資料
（3）文献資料　（4）天文写真資料

5　調査研究事業 …… 20～21
（1）カモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）
（2）カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）
（3）ブナ科樹木の豊凶調査
（4）ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業
（5）Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

6　その他 …… 22～25
（1）福井県自然保護関係機関連絡会議の開催
（2）大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力
（3）コウノトリの足環装着作業の協力
（4）野鳥における高病原性鳥インフルエンザ対応
（5）職員の派遣　（6）ワークショップ・研究集会等での発表
（7）委員の受託など　（8）事業実施において協力・連携した団体

Ⅲ そ　の　他 …… 26～33
1　１年のあゆみ …… 26～27
2　施設利用実績 …… 28～30
3　運営会議 …… 31
4　関係条例・規則 …… 32～33

Ⅰ　自然保護センターの概要

1　施 設 の 概 要

1．所在地：福井県大野市南六呂師 169 － 11 － 2

2．施設の概要

（1）本館（平成２年度完成、平成 14 年度展示更新）

①面積　建築面積：1,151.13 ㎡　　延床面積：2,111.27 ㎡

②構造　木造・鉄筋コンクリート混構造３階建（地下１階、地上２階）

③施設　１階：展示室、レクチャーホール、ボランティアルーム、事務室等

２階：展示室、森の学習室、工作室、会議室等

地下：資料室、飼育室等

（2）観察棟（平成元年度完成）

①面積　建築面積：209.62 ㎡　延床面積：418.86 ㎡

②構造　鉄筋コンクリート３階建

③施設　１階：プラネタリウム室（座席 44 名）、事務室

２階：野外観察室（観察用望遠鏡設置）

３階：天体観察室（80 ㎝反射式望遠鏡１台、付属望遠鏡設置）

※令和６年９月～ 10 月に 80 ㎝反射式望遠鏡のオーバーホールを実施

（3）自然観察小屋２棟（平成３年度完成）※令和７年度現在使用不可

①面積　建築面積：19.72 ㎡　延床面積：27.36 ㎡（それぞれ１棟当たり）

②構造　木造２階建

③施設　１階、２階：動物観察室

（4）自然観察の森（平成４年度完成）

①面積　約 28 ha

②施設　広　場：学習広場、ファミリー芝生広場

遊歩道：アプローチ道路やとんぼの小路など

湿原等：妻平湿原、馬取池、とんぼの池

3．自然保護センター開館日

平成２年７月 12 日

2　施設の平面図・面積表

本館



〈2階〉



〈1階〉

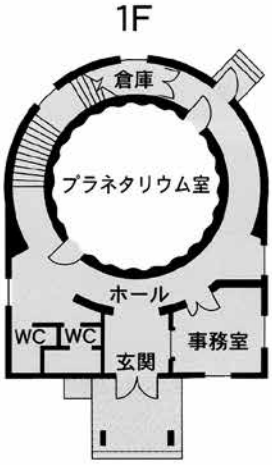


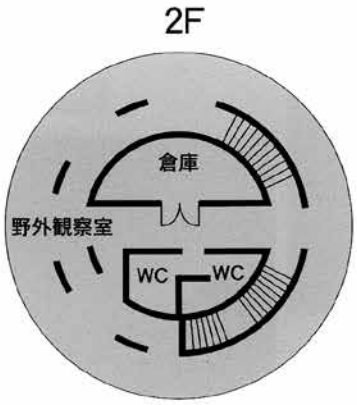
〈地下1階〉

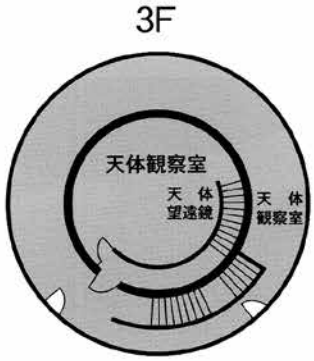
本館面積表(2,111m²)

地下1階		1階		2階	
室名	面積(m²)	室名	面積(m²)	室名	面積(m²)
一般資料室	69	展示室	313	展示室	277
乾燥資料室	43	レクチャーホール	165	森の学習室	60
飼育準備室	23	事務室	61	資料室	28
飼育室(4室)	54	所長室	20	工作室	84
機械室	95	ボランティアルーム	19	工作準備室	22
電気室	28	研究室	40	会議室	52
廊下・ブロワー室	103	休憩室	28	倉庫	43
ポンプ室・エレベーター他		情報資料室	35	暗室・便所・その他	67
		実験室	20		
		映写室	11		
		車庫	76		
		倉庫	29		
		廊下・更衣室・ポーチ玄関・便所・他	246		
合計	415(m²)		1,063(m²)		633(m²)

観察棟





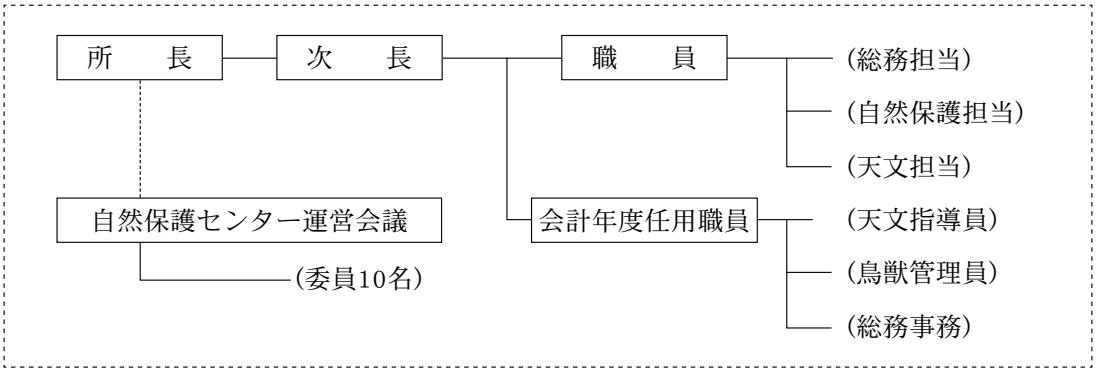


観察棟面積表(418m²)

階	室名	面積(m²)	計
1	プラネタリウム室	45	132m²
	ホール	41	
	事務室	16	
	玄関・倉庫・その他	30	
2	観察室	111	154m²
	倉庫	15	
	その他	28	
3	天体観察室(内)	45	132m²
	天体観察室(外)	67	
	階段	20	
合計			418m²

1階　プラネタリウム室　44名収容　スクリーン直径6.5m
2階　野外観察室　50名収容　7台の野外観察用望遠鏡－動・植物の観察
3階　天体観察室　50名収容　口径80cmの反射望遠鏡1台　口径10cmの屈折望遠鏡2台
口径20cmの屈折望遠鏡1台　口径20cmの反射望遠鏡3台
TVカメラ装置の設置

3　組織と事業概要



■職員構成
（令和７年度）

職種＼担当	所　長	次　長	総　務	自然保護・天文	計
事　　務	1		1	1	3
獣　医　師		1			1
自然保護職				2	2
教　職　員				1	1
会計年度任用職員			1	2	3
計	1	1	2	6	10

■事業概要（令和７年度）

1．展示事業　・・・・・○常設展示　　○特別展など
　　○生体展示　　○冬の野鳥レストランの開設

2．指導普及事業　・・・○自然観察会などの企画開催
　　○天体観望会などの企画開催
　　○館内・自然観察の森ガイドの実施
　　○団体向け工作プログラムの実施
　　○特別企画などの開催　　○生き物百葉箱事業
　　○インターネットによる自然情報の発信
　　○広報誌の発行　　○傷病鳥獣救護
　　○自然に関する相談・対応
　　○重要里地里山保全活動、生き物共生ホットエリアへの支援事業
　　○侵略的な外来種防除対策

3．研修養成事業　・・・○星空案内人（星のソムリエ®）資格認定講座
　　○Fukui Star Guide Kidsチャレンジ
　　○研修生受け入れ

4．資料収集事業　・・・○標本資料、視聴覚資料、文献資料、天文写真資料の収集や保管

5．調査研究事業　・・・○カモ科鳥類生息調査　　○カワウ生息調査
　　○自然観察の森周辺環境調査　○ブナ科樹木の豊凶調査
　　○ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業
　　○Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

6．その他　・・・・・・○福井県自然保護関係機関連絡会議の開催
　　○大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力
　　○コウノトリの足環装着作業の協力
　　○野鳥における高病原性鳥インフルエンザ対応
　　○職員の派遣　　○ワークショップ・研究集会等での発表
　　○委員の受託など

Ⅱ 自然保護センターの事業の展開

1 展 示 事 業

自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開し、県民に自然の素晴らしさと保護の重要性を伝えた。

（1）常設展示

本館（平成 14 年度に更新）

【1階】
「自然観察へ行こう」
「福井の水辺を考える」
「刈込池のブナ林」

【2階】
「森の仲間たち」　「福井の自然観察三昧」
「山のめぐみ」　「失われ行く生物多様性」
「生物を守る努力」
「地球環境問題を考える・エコロ人度チェック」
「森の学習室」　「ビデオコーナー」

観察棟

【1階】
「太陽系展示パネル」
「天体・星景写真」コーナー

【2階】
「隕石」コーナー

（2）特別展など

タイトル	期間	会場	展示内容
愛鳥週間用ポスター原画コンクール入賞作品展示（主催:福井県自然環境課）	令和7年4月24日～5月6日	1階事務室前掲示板	愛鳥週間用ポスター原画コンクールの入賞者の作品を展示
企画展「はじめよう！自然体験」	4月25日～6月29日	1階レクチャーホール	植物の観察や昆虫採集、天体観望、バードウォッチングなどの自然体験活動について紹介
ふくい星空写真展２０２５	7月11日～8月31日	1階レクチャーホール	過去3年以内に県内で撮影された一般公募の星景写真と天体写真61点を展示
企画展「恐竜の子孫！福井の鳥たち」	9月12日～11月9日	1階レクチャーホール	恐竜と現生鳥類の関係をパネルで紹介し、県内で見られる鳥類の剥製を解説パネルと共に展示
ミニ企画展「冬に見られるカモのなかまたち」	11月28日～令和8年3月29日	1階事務室前スペース	県内で冬に見られるカモ類の剥製を展示
ミニ企画展「自然の中の『うま』」	12月12日～令和8年3月29日	1階レクチャーホール前	2026年の干支「午」にちなみ、名前に「ウマ」がつく植物や昆虫などの標本を展示
野鳥写真展「野鳥と彩り展」	令和8年1月6日～3月1日	2階会議室	日本野鳥の会福井県の会員が撮影した野鳥写真35点を展示

（3）生体展示

タイトル	期間	会場	主な展示物
国内希少野生動植物種 ヤシャゲンゴロウ	年間	1階玄関ホール	ヤシャゲンゴロウ（成虫）
北潟湖や池ヶ原湿原の水生生物	年間	1階玄関ホール	スッポン、イシガメ、クサガメ、ギンブナ
自然観察の森の生きものたち	年間	1階展示室	アカハライモリ、アズマヒキガエル、オオコオイムシ、クロゲンゴロウ、カブトムシ、コクワガタ、オオゾウムシ等
かつて六呂師高原で見られた植物	開花期 （右記）	自然観察の森 学習広場	オキナグサ（4月～5月）、チョウジソウ（6月）、キキョウ（8月～9月）、オミナエシ（8月～9月）
県域絶滅危惧Ⅰ類 ミチノクフクジュソウ	開花期 （右記）	自然観察の森 コアジサイの径 アプローチ歩道	ミチノクフクジュソウ（4月末～5月）

（4）冬の野鳥レストランの開設

野鳥の餌が少ない冬期（令和8年1月6日～2月28日）に、屋外に餌台を設置し、野鳥を室内から間近で観察できる場を設けた。

餌として使用したヒマワリの種に野鳥が訪れ、期間中に観察できた野鳥は13種であった。例年通り、ヤマガラとシジュウカラが多く見られた。

観察できた野鳥（13 種）

ヤマガラ、シジュウカラ、コガラ、カケス、コゲラ、ヒヨドリ、アオゲラ、キジバト、アトリ、メジロ、エナガ、ウソ、ミソザザイ

「冬の野鳥レストラン」期間中入館者数（人）

	令和7年度	令和6年度
1月	1,079	1,621
2月	1,903	1,509
計	2,982	3,130

※大雪のため、令和8年1月24日、25日は臨時休館した

（5）入館者数

	令和7年度（人）	累計人数（人）
本　館	14,836	739,229
観察棟	5,695	446,890
計	20,531	1,186,119

ただし、観察棟入館者数は、天体観望会の参加人数を含む。

＜入館者の推移＞

年度	本館入館者（人）	観察棟入館者（人）	合計入館者（人）
R 3	13,550	3,123	16,673
R 4	19,109	5,625	24,734
R 5	16,256	6,154	22,410
R 6	13,802	5,092	18,894
R 7	14,836	5,695	20,531

2　指導普及事業

自然保護の指導普及のために、以下の事業を実施した。

・自然を知り学ぶための普及啓発行事の企画、開催
・自然情報の発信
・自然や傷病鳥獣に関する相談回答
・生物多様性の保全のための調査や支援活動

（1）自然観察会などの企画開催

◆自然観察ウォーク

テ　ー　マ	実施日	場　　所	参加人数(人)
夏のライトトラップ昆虫観察会	7月26日(土)	自然保護センター学習広場	27
夏の夜、白い布をライトで照らし、光に集まってくる昆虫たちを観察した。			

◆夏休み標本教室

テ　ー　マ	実施日	場　　所	参加人数(人)
作ってみよう昆虫標本	8月2日(土)	自然保護センター工作室	30
昆虫標本作成の意味や目的、昆虫採集のマナーや標本作成の方法を学んだ。			

◆愛鳥教室

テ　ー　マ	実施日	場　　所	参加人数(人)
タカの渡り観察会 in 敦賀市天筒山	9月21日(日)	敦賀市天筒山山頂	13
サシバ、ハチクマなどのタカ類について、識別方法や渡りのルートを学んだあと、望遠鏡や双眼鏡を使用して、実際の渡りを観察した。			

（2）天体観望会などの企画開催

◆天文教室

テ　ー　マ	実施日	場　　所	参加人数(人)
夏の星めぐり	7月25日（金）	自然保護センター観察棟	27
夏に見られる星や星座にもとづく話をペープサート手法で行った後、プラネタリウム室で実際に星や星座の位置など確認、天体望遠鏡で一等星や天体の観察、野外で星座の観察を行った。			
天体望遠鏡を作ろう	8月1日（金）	自然保護センター工作室	21
望遠鏡の仕組みや便利さについての解説の後、望遠鏡づくりに取り組んだ。その後、曇天のため事前に設置しておいた模型の地球や土星などを、作成した望遠鏡を使って観察した。			
初めての星景写真を撮ろう	8月22日（金）	自然保護センター工作室 駐車場	11
講師に加藤英行氏を招き、星景写真はどんな写真か、どうしたら撮れるのか、カメラの設定や撮影手順を座学で学習した後、駐車場にて実際の星空の撮影を行った。			

美しい星景写真を撮ろう	9月19日（金）	自然保護センター観察棟	10
天候が曇天のため、外での撮影を途中できりあげ、プラネタリウムで星を映して撮影をした。空の明るさや景色を自由に変えられること、プラネタリウムならではの特徴を活かした撮影が出来た。			
秋の星めぐり	9月26日（金）	自然保護センター観察棟	20
秋に見られる星や星座にもとづく話をペープサート手法で行った後、プラネタリウム室で実際に星や星座の位置など確認した。その後天体望遠鏡で惑星などの観察をした。曇天のため野外での観察に変え、秋の星や星座に関係するシールラリーを行った。			
月の写真を撮ろう	12月５日（金）	自然保護センター 工作室・駐車場	6
月の写真をどうしたら撮れるのか、カメラの設定や撮影手順を座学で学習した後、駐車場にて実際の月の撮影を行った。撮影の途中で月が雲に隠れてしまい、撮影時間は短くなってしまったが、参加者は幻想的な月の姿を写真に収めることができた。			

◆特別天体観望会

テ　ー　マ	実施日	場　　所	参加人数(人)
ペルセウス座流星群を見よう	8月12日（火）	自然保護センター観察棟 学習広場	中止
学習広場、観察棟周辺、観察棟で流れ星や夏の星座を観察する予定であったが、荒天のため中止とした。			
旧七夕で星見会 ～フルートの調べと共に～	8月29日（金）	自然保護センター観察棟	37
フルート演奏を取り入れた観望会を行った。七夕の歴史とそれにまつわる天体の話をプラネタリウムの中で紹介した後、天体望遠鏡で惑星や星を、野外で夏の星座や流れ星を観察した。			
中秋の満月に、にこっ（二胡）	10月7日（火）	自然保護センター観察棟 周辺	25
名月の観望と「2strings」による二胡の演奏を開催した。曇天により月を眺める時間が少なかったため、中秋の名月についてのペープサート解説等を実施した。演奏途中で一瞬月が見えるときがあったが、双眼鏡や天体望遠鏡を使った観察は行うことができなかった。			
流れ星を見よう	10月21日（火）	自然保護センター観察棟	27
流れ星についての話を行った後、観察棟周辺、３階天体望遠鏡で流れ星や秋の星座を観察する予定であったが、曇天のためプラネタリウムで秋の星座の紹介や神話を紹介した。			

◆天体観望会

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象 週末天体観望会	38	721
一般対象 昼の天体観望会	152	725
団体対象 天体観望会	45	1,299
計	235	2,745

◆プラネタリウム

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象 プラネタリウム（土・日曜日・祝日）	167	799
団体対象 プラネタリウム	54	1,565
計	221	2,364

◆冬の星空ガイド

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象 冬の星空ガイド（土・日曜日・祝日）	38	276
団体対象 冬の星空ガイド	1	20
計	39	296





写真左：特別観望会「中秋の満月に、にこっ（二胡)」
写真右：天体望遠鏡を作ろう

（3）館内・自然観察の森ガイドの実施

・「四季の自然観察シリーズ」として、４月、５月、６月、９月、10 月の日曜日、祝日に一般来館者を対象に１日２回、自然保護センター館内および自然観察の森のガイドを行った（実施:19 回、参加者：192 人)。
・事前申し込みによる団体を対象に、センター本館およびその周辺で「館内・自然観察の森ガイド」を実施した。（35団体、1,103人）

	四季の自然観察シリーズ					
月	4	5	6	9	10	計
回　数（回）	1	7	5	4	2	19
参加人数（人）	5	81	51	42	13	192

自然観察の森解説ガイド（四季の自然観察シリーズ）一覧

実施日	曜日	テ　ー　マ	講　師
4/29	火祝	森の中でスプリングエフェメラルを見よう	廣野　栄美
5/3	土祝	森の中でネイチャーゲームを楽しもう	吉田　真美子
5/4	日祝	春の森を楽しもう	井部　正興
5/5	月祝	夏鳥の声を聞いてみよう	大橋　正明
5/6	火振	早春の森を散歩しよう	多田　雅充
5/11	日	松ぼっくりでマスコットをつくろう	今井　尚子
5/18	日	森の幼稚園　－春蝶と散歩－	大石橋　節子
5/25	日	水辺の生きものをさがそう	浅利　裕太
6/1	日	森の中の昆虫を見つけよう	立松　拓樹
6/8	日	コシアブラで遊ぼう	山田　儀一
6/15	日	夏の昆虫をさがそう	伊藤　勝幸
6/22	日	夏のきのこを探そう	小林　しのぶ
6/29	日	押し花でしおりづくりしませんか？	田中　喜美枝
9/15	月祝	森の中でネイチャービンゴを楽しもう	野村　みゆき
9/21	日	土の中の小さなアイドルをさがそう	斎藤　寿子
9/23	火祝	観察の森のコケをさがそう	櫻井　知栄子
9/28	日	夏の名残りと秋を見つけよう	山岸　登美子
10/5	日	赤とんぼ、バッタをつかまえよう	矢村　健一
10/12	日	県鳥のツグミは来たかな？	酒井　敬治

（4）団体向け工作プログラムの実施

・事前申し込みの団体を対象に、自然観察の森で域外栽培しているミチノクフクジュソウを利用した「ミチノクフクジュソウしおり作り」を実施した（9団体、297人）。

・事前申し込みの団体を対象に、池ヶ原湿原で刈り取ったヨシを利用した「ヨシ工作（ヒンメリ・ストロー作り）」を実施した（5団体、210人）。

（5）特別企画などの開催

ゴールデンウィークや夏休みなどの連休等に特別企画イベントを開催した。

＜特別企画イベントの実施状況＞

特別企画の内容	実施日	場所	参加人数（人）
ゴールデンウィーク特別企画 「森の材料で工作しよう」	5月3日（土祝） 5月4日（日祝） 5月5日（月祝）	本館 工作室	49
夏の特別企画 「森の材料で工作しよう」	7月27日（日）	本館 工作室	9
秋の特別企画 「鷹匠放鷹実演」	10月11日（土）	学習広場	82

（6）生き物百葉箱事業

小学校などの子どもを含む団体が自主的に行う身近な自然環境の観察や調査を支援し、継続的な調査や生態系の保全・再生の必要性を学ぶことを目的とした事業であったが、ツキノワグマの大量出没の影響により野外での活動が自粛されたことなどで環境アドバイザーの派遣は無かった。

・登録人数（団体数） 6,267 人（197 団体）

・環境アドバイザーの派遣回数 0回（派遣人数 年0人、受講者人数 年間0名）

（登録グループ別内訳）

グループ名	登録数	登録人数
学　　校	51	2,310
団　　体	64	2,861
放課後クラブ	8	248
公　民　館	14	518
子　供　会	2	69
一　　般	57	206
エンゼルランド	1	55
合　計	197	6,267

（7）インターネットによる自然情報の発信

①ホームページによる情報発信

更新：年 147 回、年間アクセス件数：81,560 件

② Instagram、Facebook ページによる情報発信

更新：年 130 回、合計リーチ数：19,612 件

SNS 登録者合計 1,244 人（Instagram363 人、Facebook881 人）

③メールマガジン「みみずく通信」による情報発信

・購読者の増加を図るため、携帯電話用のメールマガジンを PC 版と併せて配信

・ＰＣ版「みみずく通信」 配信回数：年間 29 回、累計 599 号（2006 年 1 月より）
配信人数：676 人

・携帯版「みみずく通信」 配信回数：年間 27 回、累計 536 号（2010 年 11 月より）
配信人数：139 人

（8）広報誌の発行

自然保護センターの広報誌として『自然保護センターニュース』を年間４号発行した。

○自然保護センターニュース

発　行　日	巻　号	季節の自然情報
令和７年４月27日	第17号	愛鳥週間（バードウィーク）
令和７年７月27日	第18号	山の日
令和７年10月28日	第19号	世界渡り鳥の日
令和８年１月21日	第20号	世界湿地の日

（9）傷病鳥獣救護

傷病鳥獣の救護は、公益社団法人福井県獣医師会の協力を得ながら、生物多様性の考え方および社会情勢を踏まえ、県民感情に寄り添いながら、救護の対象を絶滅のおそれのある種で傷病の発生原因が人的な場合などに限定することを基本に対応した。

自然保護センターの救護個体の放野率（放野個体数／放野個体数＋死亡・安楽殺個体数）は、75.0％であった。

①　傷病鳥獣の保護飼養数（自然保護センター取扱い）過去 10 年間のみ詳細を掲載（件・個体数）

分類＼年度		H2～27	H28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	累計
鳥　類	件 数	1,635	79	81	62	35	23	22	15	11	28	5	1,996
	個体数	2,383	95	109	87	35	24	23	21	15	32	6	2,830
哺乳類	件 数	276	8	13	6	1	0	3	1	2	4	2	316
	個体数	320	11	13	8	1	0	3	1	3	4	2	366
計	件 数	1,911	87	94	68	36	23	25	16	13	32	7	2,312
	個体数	2,703	106	122	95	36	24	26	22	18	36	8	3,196

②　傷病鳥獣の治療数（福井県獣医師会取り扱い）過去 10 年間のみ詳細を掲載　（件・個体数）

分類＼年度		H2～27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	累計
鳥　類	件　数	5,564	209	249	103	69	44	30	10	3	3	3	6,287
	個体数	5,696	216	264	104	71	46	31	10	3	3	3	6,447
哺乳類	件　数	541	22	18	7	3	5	5	1	1	1	0	604
	個体数	557	23	18	7	3	5	5	1	1	1	0	621
計	件　数	6,105	231	267	110	72	49	35	11	4	4	3	6,891
	個体数	6,253	239	282	111	74	51	36	11	4	4	3	7,068

③　救護した鳥獣種とその結果　　（個体数）

鳥獣名（鳥類）	放野	死亡	安楽殺	飼養継続	その他	合計
ハシボソガラス	1					1
キジバト	1					1
ドバト	2					2
ツバメ	2					2
鳥　類　合　計	6	0	0	0	0	6
鳥獣名（哺乳類）	放野	死亡	安楽殺	飼養継続	その他	合計
タヌキ	1					1
テン	1					1
哺　乳　類　合　計	2	0	0	0	0	2
総　合　計※	8	0	0	0	0	8

※①と②に重複する案件があるため、①と②の合計数は③の合計数と必ずしも一致しない時がある。

（10）自然に関する相談・対応

県民や行政などからの自然に関する相談や専門的な質問に回答した。

令和７年度の分野別の相談件数

分　野　別	件数
哺　乳　類	26
鳥　類	328
その他脊椎動物	8
無脊椎動物	19
植　物	47
地形・地質	1
天体・天文	7
そ　の　他	12
計	448

令和７年度の内容別の相談件数

内　容　別	件数
傷病鳥獣	61
自然一般	309
自然学習	10
マスコミからの問い合わせ	47
行政からの問い合わせ	21
そ　の　他	0
計	448

相談の中には生物の県内分布状況に関する情報提供等も含まれており、特に重要と考えられるものについては下記の表に概要を示す。

種　名	個体数	確認方法※1	記録年月日※2	記録場所※3	関連する文献記録
ニホンモモンガ	1	死体	令和７年５月 29 日	若狭町	

※１　センター職員が確認した方法

※２　相談者が目撃・撮影等した年月日

※３　相談者が目撃・撮影等した場所

（11）重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア（重点活動地域）への支援事業

県は里地里山の絶滅危惧種が集中して分布している地域として、平成16年度に「福井県重要里地里山」30箇所を指定した。これらの地域において生物多様性の保全と活用を図るため、地域住民や県、市町、専門家等が連携して各地域の里地里山を計画的に保全する活動を支援してきた。

特に希少野生生物が分布する「白山・坂口」、「三方五湖周辺」、「中池見・池河内湿原」、「東尋坊・北潟湖」、「平泉寺・奥越高原」の県内5地域を「生き物共生ホットエリア（重点活動地域）」として選定し、重点的に自然再生活動を推進している。

令和7年度には、あわら市北潟地域（北潟地区）、坂井市陣ヶ岡丘陵地域（安島地区）、勝山市北谷町（小原地区）、六呂師高原、大野市阿難祖の5地域において団体等の活動支援を実施した。

①各支援地域における事業概要

ホットエリア	地域名	活動団体	主な事業内容	保全対象種
東尋坊・北潟湖地域	あわら市北潟湖周辺	北潟湖自然再生協議会	①ため池の希少水生昆虫の保全と再生 ・侵略的外来種（ウシガエル・アメリカザリガニ等）の駆除 ②湿地性鳥類の生息状況調査 ・カスミ網を使った標識調査（許可保有者により実施） ・センサーカメラによる潜行性鳥類の生息状況調査 ・鳥類の生息に影響を与える特定外来生物アライグマのモニタリング ③普及啓発活動 ・特定外来生物（オオキンケイギク）の除去イベントや自然観察会への協力	オグマサナエ、トラフトンボ、アオヤンマ、ネアカヨシヤンマ、チョウトンボ、ミヤケミズムシ、マルケシゲンゴロウ、ノジコ、ヒクイナ、コウホネ等
	坂井市陣ヶ岡丘陵地域周辺	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会、天池を守る会	・環境教育、自然観察会の実施（雄島小学校） ・侵略的外来種（アメリカザリガニ）の駆除	ゲンゴロウ類、ネアカヨシヤンマ、オオコオイムシ等
平泉寺・奥越高原地域	勝山市北谷町	小原ECOプロジェクト	・ミチノクフクジュソウの観察会と保全活動（勝山市・村岡小学校）	ミチノクフクジュソウ
	六呂師高原周辺	池ヶ原湿原保全・活用協議会	①池ヶ原湿原保全・活用協議会の運営 ・保全・活用策の協議と合意形成 ・湿原保全活動（外来種除去・ヨシ刈り）イベントの開催 ・普及啓発活動 ②利活用の推進 ・環境教育の実施（平泉寺小学校） ③湿原植物を保全する植生管理 ・ヨシの刈り取り ・ハンノキ等低木類の選択的除去 ・特定外来生物（オオハンゴンソウ）の駆除 ・土のう堰の設置 ・希少な湿原植物の生育モニタリング	ミズチドリ、トキソウ、ノカンゾウ、カキラン等
	大野市阿難祖	大野市民	・フクジュソウの観察会と保全活動（草刈り、落葉枝の除去）	フクジュソウ

②講師派遣の概要

下記のとおり講師派遣を、計 29 回（４地域約 640 人参加）実施した。

重要里地里山地域名	活動名・演題	場　　所	実施日	主催者	参加人員
北潟湖周辺	オオキンケイギク除去イベント	あわら市北潟 北潟湖畔公園	令和7年5月8日	北潟湖自然再生協議会	57
北潟湖周辺	オオキンケイギク除去体験	あわら市北潟 北潟湖畔公園	令和7年6月5日	あわら市立北潟小学校	19
北潟湖周辺	外来生物について	あわら市立北潟小学校	令和7年6月12日	あわら市立北潟小学校	17
北潟湖周辺	浜坂湿地探検ウォーク（自然観察会）	あわら市浜坂	令和7年7月5日	北潟湖自然再生協議会	21
北潟湖周辺	外来種駆除体験	あわら市赤尾	令和7年7月8日	あわら市立北潟小学校	19
北潟湖周辺	絶滅危惧種と外来生物対策について	あわら市立北潟小学校	令和7年7月10日	あわら市立北潟小学校	17
北潟湖周辺	アカミミガメを見てみよう！in北潟公民館まつり	あわら市北潟	令和7年10月19日	北潟湖自然再生協議会	18
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市立雄島小学校	令和7年4月28日	坂井市立雄島小学校	8
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年5月26日	坂井市立雄島小学校	9
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年6月16日	坂井市立雄島小学校	8
陣ヶ岡丘陵地周辺	坂井市立雄島小学校５年生自然観察会	坂井市三国町安島	令和7年6月20日	坂井市立雄島小学校	40
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年7月7日	坂井市立雄島小学校	9
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年10月20日	坂井市立雄島小学校	9
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年11月10日	坂井市立雄島小学校	9
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市立雄島小学校	令和7年12月8日	坂井市立雄島小学校	9
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市立雄島小学校	令和8年1月26日	坂井市立雄島小学校	7
陣ヶ岡丘陵地周辺	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和8年2月9日	坂井市立雄島小学校	9
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ観察会	勝山市北谷町	令和7年4月26日	勝山市未来創造課	約10
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ開花観察会事前授業	勝山市立村岡小学校	令和7年4月18日	小原ECOプロジェクト 勝山市立村岡小学校	27
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ開花観察会	勝山市北谷町	令和7年4月25日	小原ECOプロジェクト 勝山市立村岡小学校	27
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ自生地生き物調べ	勝山市立村岡小学校	令和7年5月27日	小原ECOプロジェクト 勝山市立村岡小学校	27
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ保全活動事前授業	勝山市立村岡小学校	令和7年10月6日	小原ECOプロジェクト 勝山市立村岡小学校	29
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ保全活動	勝山市北谷町	令和7年10月15日	小原ECOプロジェクト 勝山市立村岡小学校	29
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ自生地生き物調べ	勝山市立村岡小学校	令和7年12月12日	小原ECOプロジェクト 勝山市立村岡小学校	29
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原出前授業	勝山市立平泉寺小学校	令和7年5月28日	勝山市立平泉寺小学校	31
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原 水生生物調査	勝山市平泉寺町 池ヶ原	令和7年6月19日	勝山市立平泉寺小学校 勝山市立成器南幼稚園 南こども園（勝山市）	約40
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原 水生生物調査	勝山市平泉寺町 池ヶ原	令和7年9月26日	勝山市立平泉寺小学校	16
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原ヨシ刈り・植物相モニタリング実習	勝山市平泉寺町 池ヶ原	令和7年10月20日	福井県立大学生物資源学部創造農学科	37
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原ヨシ刈り	勝山市平泉寺町 池ヶ原	令和7年11月5日	勝山市立平泉寺小学校	約50

③六呂師高原湿原植生管理支援事

池ヶ原・妻平湿原では、平成21年度から24年度の緊急雇用創出事業により湿原の植生管理を実施し、希少かつ独自の植生やトンボ類等の多様性を再生させた。その後もこれらの景観や生物多様性を今後も維持していくため、再び成長するヨシやハンノキ等の植生管理を継続して実施している。

＜池ヶ原湿原＞

・目的

○湿原本来の植生を保全するため、植生保全作業の実施とあわせて、外来植物の除去および園地の維持管理を行う。

・内容

○池ヶ原湿原は、ミズチドリやオオミズゴケなど多様な湿性植物が生育する嶺北最大規模の湿原である。しかし、平成 20 年度以前はヨシ・低木・ハンノキが繁茂し、丈の低い湿性植物の生育を阻害していた。また、湿原内に特定外来生物オオハンゴンソウが侵入し、かつ管理頻度の低下に伴って園地のヤブ化が進んでいたが、平成 21 ～ 24 年度に緊急雇用創出事業による植生管理（ハンノキ、低木の除去及びヨシの刈り取り）、地下水位の上昇･水質の維持、オオハンゴンソウの除去等の作業の実施により湿原植生が回復した。

○平成 25 年度､｢池ヶ原湿原連絡協議会｣ を設立し､自然保護センターを事務局とする､県､市､地域住民・企業、専門家等の多様な主体の連携による湿原保全の体制を作り保全活動を実施している。なお、会の目的を明確にするため、平成 29 年４月に、名称を「池ヶ原湿原保全･活用協議会」に改めた。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会構成員

区　　分	氏名又は団体名
専門家	北川　博正（会長）
地域住民	勝山市平泉寺町平泉寺区
企業	勝山ロータリークラブ 勝山ファーマ株式会社 ケイテー株式会社 山田兄弟製紙株式会社
教育機関	勝山市立平泉寺小学校
自然関係団体	ノーム自然環境教育事務所 福井県自然観察指導員の会（副会長）
行政機関	勝山市未来創造課 福井県奥越高原牧場 福井県立奥越高原青少年自然の家 福井県自然環境課 福井県自然保護センター（事務局）

令和７年度は、池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動として、協議会の開催、秋のヨシ刈り活動、平泉寺小学校の環境教育の支援、ふるさと環境フェアへのワークショップブースの出展を行った。また､未来に残したい草原の里 100 選(事務局:全国草原の里市町村連絡協議会)の選定を受けた。さらに、自然共生サイトの認定を受けた（認定省庁：環境省・農林水産省・国土交通省)。夏のオオハンゴンソウ駆除・ハンノキ巻枯らし活動は荒天のため中止した。

湿原内の植生保全のため、ヨシの刈り取り、ハンノキ等低木の伐採・環状剥皮、オオハンゴンソウの除去等を委託により実施した。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動状況

実　施　日	場　　所	イベント名	概　　要	参加人員
令和7年5月15日	奥越高原牧場	協議会 (第１回目)	Ｒ７年度活動計画の説明 自然共生サイトの説明	15
5月23日	―	未来に残したい草原の里100選認定	未来に残したい草原の里100選に選定された（事務局：全国草原の里市町村連絡協議会）	―
6月14日	池ヶ原湿原	池ヶ原湿原保全作業	オオハンゴンソウ除去 ハンノキの巻き枯らし	荒天中止
9月27日	ハピリン (福井市)	ふるさと環境フェア	ヨシのストロー作りワークショップの出展	145
10月14日	東京農業大学 (東京都)	草原の里交流フォーラム	草原の里認定書授与式、池ヶ原湿原事例発表	145
10月18日	池ヶ原湿原	ヨシ刈り	湿原内のヨシの刈取り	約40
令和8年2月20日	勝山市教育会館	協議会 (第２回目)	Ｒ６年度事業実施結果報告 Ｒ７年度事業計画案の説明	9
3月20日	―	自然共生サイト認定	自然共生サイトの認定を受けた（認定省庁:環境省・農林水産省・国土交通省）	
3月27日	自然保護センター	自然共生サイト認定証授与式	自然共生サイトの認定証が授与された	

○植生保全のための委託作業状況

作　業　内　容	作　業　日	作業人員
ハンノキ低木の除去： 手動ウィンチ法による抜き取り	令和7年5月20、21日	3.0人・日 (144本)
ハンノキ低木の除去： ピーラー法による環状剥皮	令和7年5月20、21日、7月31日	7.75人・日 (390本)
ハンノキ等低木類の選択的除去	令和7年5月13、14日	6.0人・日 (約7,500㎡)
ヨシ刈り後低木除去	令和7年11月11日、12月2日	6.0人・日 (約2,200㎡)
オオハンゴンソウの除去： 個体抜き取り	令和7年6月12、13日、7月2日	8.0人・日 (1,162㎡、 1,158本)
オオハンゴンソウの除去： 刈り払い	令和7年7月2日、22日	3.0人・日 (約570㎡)
土のう堰のメンテナンス	補修：令和7年5月20日 点検：令和7年6月12日、7月2、31日、12日、9月9日	1.25人・日 (1回)
計		41人・日

このほか、自然保護センターにおいてオオハンゴンソウへの除草剤の塗布を実施（令和７年７月）。

○自然観察会の開催

勝山市わくわく体験学習推進隊による自然観察会が実施された（19 名）。小学校等を対象とした観察会を計３回実施し、計 96 名が参加した。

＜妻平湿原＞

・目的

○妻平湿原の植生および水生昆虫の生息環境を保全するため、ヨシおよびハンノキを管理し、光環境を改善するとともに水深を確保する。

・内容

○妻平湿原はミツガシワの県内最大級の生育地であり、他にも多様な湿性植物が生育し、かつて水田であった部分（約 1,800 ㎡）と、以前から湿原であった部分から成り立っている。水田であった部分は、上流から土砂や栄養分の流れ込みが増加し、ヨシ、マコモ等の高茎草本が繁茂しやすい状態になっている。その結果、オオルリボシヤンマ等のトンボ類の生息に好適な開放水面の面積が減少し、観察できなくなってきている。一方、六呂師高原のハッチョウトンボは絶滅したと推定されていたが、2010 年代に池ヶ原湿原、自然観察の森のトンボ池および妻平湿原で確認されるようになった。

○そこで、オオルリボシヤンマ等およびハッチョウトンボが観察できる湿地を目指した植生管理を実施してきた。平成 27 年度から平成 30 年度に職員作業およびインターシップ研修でヨシの抜き取りやマコモの刈り取りを実施した。令和２年は委託によりヨシの刈り取りを実施した。

○令和３年～６年度は福井県自然観察指導員の会に委託し、ヨシの刈り取り、ハンノキの伐採を実施した。

○令和７年度はセンター職員において 11 月 29 日･30 日にヨシの刈り取りを､12 月 8 日にピーラー法によるハンノキの環状剥皮を実施した。

○今後も草丈の高いヨシ等の除去作業を実施するとともに、トンボ類をはじめとする生物相モニタリングを実施していく必要がある。

（12）侵略的な外来種防除対策

①特定外来生物ウチダザリガニ分布調査

ウチダザリガニの九頭竜湖における分布を調査した。令和７年秋季に九頭竜湖内５地点および湖外３地点にカゴ罠を仕掛けたところ、ウチダザリガニは九頭竜湖内４地点で捕獲された。九頭竜湖外では捕獲されなかった。本調査結果は Ciconia29 へ寄稿した。

また､例年捕獲･駆除を実施していた面谷橋における捕獲効率（= 捕獲個体数／（わなの設置数･わなの稼働日数））は 0.50 ～ 1.75 であった。

3　研修養成事業

環境保全等に関心を持つ県民を養成するために、星空案内人（星のソムリエ®）資格認定講座を実施したほか、インターンシップ研修生の受け入れを行った。

（1）星空案内人（星のソムリエ®）資格認定講座

福井県自然保護センターは令和３年度に星空案内認定制度の実施団体となった。令和７年度も星空案内人（星のソムリエ®）養成講座を実施した。受講者19名であった。令和７年度内に18名の準星空案内人、６名の星空案内人を認定した。

実施日	科目名	会場
令和７年 ５月11日	開講式・交流会	福井県自然保護センター　本館
	さあ、はじめよう	
５月18日	宇宙はどんな世界	
	星空の文化に親しむ	
５月25日	望遠鏡のしくみ	
	望遠鏡を使ってみよう①	
６月７日	望遠鏡を使ってみよう②	
	星座をみつけよう	福井県自然保護センター　観察棟
６月14日	星空案内の実際	
６月29日	準案内人認定式・情報交換会	福井県自然保護センター　本館
令和８年 ３月22日	案内人認定式・ ソムリエのつどい	

（2）Fukui Star Guide Kids チャレンジ

令和７年９月～令和８年２月に自然保護センターにおいて、大野市阪谷小学校児童１名に対して星空ガイドの研修「Fukui Star Guide Kids チャレンジ」を実施した。

（3）研修生受け入れ

福井県立大学生物資源学部創造農学科の依頼を受けインターンシップ研修として４名を受け入れた。

研修名	依頼元	人数	所　属	研修期間
農業インターンシップ	福井県立大学 生物資源学部 創造農学科	4	福井県立大学	8月17日・18日・21日～26日

4　資料収集事業

各分野の標本資料や視聴覚資料、自然に関する文献等の収集や保管を行った。

（1）資料登録済標本資料

標本資料数（点）

取得＼分類		哺乳類	鳥　類	魚・両生・爬虫類	昆虫類	無脊椎動　物	植　物菌　類	岩石・鉱物・古生物	天　文	その他
収集	７年度	2	0	0	76	0	0	0	0	0
	累　計	89	443	100	3,244	49	1,623	131	0	2
購入	７年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累　計	13	31	14	11	0	614	350	9	0
寄贈・寄託	７年度	2	2	1	133	0	0	0	0	0
	累　計	28	166	25	1,917	27	14,117	58	0	36
７年度計		4	2	1	209	0	0	0	0	0
累　計		130	640	139	5,172	76	16,354	539	9	38

（2）資料登録済視聴覚資料

視聴覚資料数（件）

取得＼分類		脊椎動物		昆　虫		無脊椎動物		植　物		地形・地質		天　文		その他	
		写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像
収集	７年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累　計	1,843	13	1,702	4	25	0	3,537	0	1,725	4	855	2	514	42
購入	７年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累　計	0	67	0	30	0	6	0	18	1	34	12	15	8	31
寄贈	７年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累　計	119	25	547	4	0	1	13	6	47	25	211	86	147	114
７年度計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
累　計		1,962	105	2,249	38	25	7	3,550	24	1,773	63	1,078	103	669	187

（3）文献資料

文献資料数（冊）

取　得＼種　類		単行本	雑　誌	報告書	その他
購　入	７年度	3	0	0	0
	累　計	1,446	260	0	0
交換・配付（その他）	７年度	0	139	70	208
	累　計	0	1,240	4,713	10,124
寄　贈	７年度	26	0	0	0
	累　計	2,051	141	424	779
７年度計		29	139	70	208
累　計		3,497	1,641	5,137	10,903

（4）天文写真資料

ふくい星空写真展で応募いただく際に、指導普及事業に活用することをご了承いただいた写真データについて、撮影した映像はホームページや提供資料に活用した。

5　調査研究事業

福井県内の自然環境を把握し、自然保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施した。

（1）カモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）

趣　旨：　鳥類保護行政の基礎資料とすることを目的として、県内に渡来するカモ科鳥類の生息状況を把握する。

概　要：　この調査は、国（昭和 44 年度から林野庁、昭和 48 年度から環境庁、平成 12 年度から環境省）の依頼により、毎年１月 15 日前後に、全国一斉に行われているものである。福井県においては昭和 52 年度以降、県が日本野鳥の会福井県に委託して調査を実施している。令和７年度の調査は、本県におけるガン・カモ・ハクチョウ類の主要な渡来地となっている 17 か所の湖沼、河川、内湾、平野部において調査を行った。調査は坂井平野のガン類調査が１月 11 日に、その他地点の調査が１月 12 日（敦賀市阿原ヶ池のみ１月 16 日実施）に実施された。調査地の全域をカバーするように観察地点を設定した上で、各調査地で１～ 14 名の調査員が双眼鏡および望遠鏡により種を判定し、観察されたガン・カモ・ハクチョウ類の種とその個体数を計数器により記録した。

結　果：　17 か所の調査地で、計 19 種 23,320 羽のガン・カモ・ハクチョウ類が記録された。昨年度と比較して種数は増減なし、個体数は 990 羽増加した。今回の調査で、ガン類が２種 61 羽、ハクチョウ類が１種 239 羽、カモ類が 16 種 23,020 羽記録された。優占度の高かった種は、マガモ 58.5％、コガモ 10.2％、カルガモ 8.7％、トモエガモ 7.0％、ヒドリガモ 4.5％であり、上記５種で全体の 88.9％を占めている。

成　果：　調査結果は日本全国の結果と統合して集計するため、調査結果を自然環境課へ報告し、自然環境課から環境省生物多様性センターに報告した。また、調査結果を下記の報告書にとりまとめ、関係機関等に配布したほか、自然保護センターのホームページ上で公開した。

日本野鳥の会福井県（編）．2026．令和７（2025）年度カモ科鳥類生息調査報告書．福井県自然保護センター，大野．

（2）カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）

趣　旨：　中部、近畿圏におけるカワウ広域保護管理指針策定の基礎資料とするため、県内におけるカワウの生息状況を把握する。

概　要：　近年、全国的に個体数が増加し、内水面漁業との間で軋轢が生じているカワウは、行動域が広く県境を越えて移動するため、その被害防止と保護の両立には広域的な保護管理が必要である。そこで、環境省主導のもと、中部近畿カワウ広域協議会が設立され、広域保護管理指針の策定を目指している。この協議会では、カワウの保護管理の基礎資料とするため、各府県が連携してカワウの生息状況を把握することとしており、本県においても日本野鳥の会福井県に委託し、カワウの営巣地・ねぐら調査を年３回実施してきた。令和７年度は７月期、12 月期、３月期において、これまでに判明しているカワウの営巣地・ねぐら 10 地点（現在利用が無い地点も含む）で、日没前後の入巣・就塒個体数の計数を行った。また、11 月～ 12 月には新規営巣地・ねぐらを発見することを目的として、主要な水系沿いでルートセンサスを実施した。さらに、西日本では、カワウの新たな営巣地やねぐらはサギ類の営巣地への侵入によって形成されることが多いため、主要なサギ類コロニー 10 地点についても、５月～６月に営巣種と個体数を調査した。

結　果：　県委託調査事業におけるカワウの営巣確認数は、令和7年7月期に２地点で計 46 巣、令和８年３月期に２地点で 15 巣の営巣が確認された。また、カワウの営巣地・ねぐら 10 地点における令和７年７月期、12 月期および令和８年３月期の入巣・就塒個体数の合計は、それぞれ 361 羽、463 羽および 402 羽であった。なお、県内のカワウの営巣数等についてはこの県調査によるもののほか、日本野鳥の会福井県が県調査の対象になっていない地点について独自調査を実施している。

成　果：　広域的なカワウの生息状況把握に利用するため、県調査結果および野鳥の会から提供された独自調査の結果を自然環境課へ報告し、自然環境課から中部近畿カワウ広域協議会に報告した。

（3）ブナ科樹木の豊凶調査

趣　旨：　クマ大量出没の予測を含むツキノワグマ保護管理の基礎資料とするため、ブナ科樹木の豊凶を把握する。

概　要：　クマの人里付近への出没件数には年次変動があり、クマの秋期における主要な餌であるブナ科樹木の堅果類が凶作の年にクマの大量出没が発生している。クマ大量出没の早期予測を目的として、８月中旬から９月上旬にかけて、県全域のブナ科樹木の着果状況を確認し、その豊凶を把握している。令和７年は８月８日～８月 29 日に、ブナ、ミズナラ、コナラの着果状況を調査した。

結　果：　令和７年度における各樹種の県全体の作柄は、ブナ・ミズナラは不作以下、コナラは豊作であった。調査結果を大量出没予測モデルに当てはめた結果、令和７年度は大量出没年であると判定された。

成　果：　本調査結果を令和７年９月 11 日に開催された「令和７年度ツキノワグマ出没対策連絡会」において発表した。令和７年９月～ 12 月の福井県におけるツキノワグマ出没件数は 534 件であった。９月に発表した予測は妥当であった。

（4）ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業

趣　旨：　国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの生息域外保全を行うために、安定的・継続的な人工飼育の方法を確立する。

概　要：　飼育室において成虫の交尾、産卵、孵化、上陸の一連の飼育を行い、飼育方法を研究した。

結　果：　令和７年度は前年度からの成虫を引き続き飼育し、それらの成虫を親として採卵を試みたところ、メス 13 個体から合計 2,200 個の卵を得た。産卵は約４ヵ月の間に複数回に分けて行われた。幼虫の餌には自然保護センター本館の周りに置いたタライで発生したボウフラや冷凍アカムシを与え飼育を行い、上陸・蛹化を経て計 447 個体の新成虫が羽化した。上記の結果等については令和７年 11 月 27 日に市民プラザたけふ・市民交流センターで開催されたヤシャゲンゴロウ生息域外保全検討会で報告し、国や関係団体、専門家、他機関と情報共有した。

（5）Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

趣　旨：　センターの調査事業および福井県内の自然に関する調査研究報告を編集・発行する。

概　要：　Ciconia Vol.29 掲載論文の一覧

- 手井修三．北陸地方の海岸保安林におけるキジバトの囀り個体数の季節変化と経年変化.
- 福井県自然保護センター．福井県におけるカワウの生息状況：カワウ生息調査事業 2022 ～ 2024 年度.
- 日本野鳥の会福井県サギ類調査グループ．福井県におけるサギ類のコロニーの分布と種構成：2024 年のサギ類コロニー調査の結果.
- 梅村信哉．福井県内で近年確認された外来昆虫・暖地性昆虫の分布状況～福井市自然史博物館で実施した市民参加型調査「ふくいむしむし大調査！－昆虫の分布調査 in 福井 2025」の結果を踏まえて～.
- 梅村信哉．福井市内の里山におけるトンボ類群集の多様性と季節変動.
- 柴田智広．勝山市法恩寺山におけるミズナラオオアザミウマの採集記録.
- 大宮正太郎・梅村信哉．福井県におけるチュウゴクアミガサハゴロモの記録.
- 大宮正太郎・樋口　篤．福井県あわら市におけるケスジドロムシの記録.
- 梅村信哉．福井市内の里山におけるハムシ類群集の多様性と季節変動.
- 福井県自然保護センター．福井県大野市におけるツマジロウラジャノメ（本州亜種）の撮影記録.
- 福井県自然保護センター・保科英人．2025 年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物ウチダザリガニの分布調査結果.
- 福井県自然保護センター．2025 年の福井県におけるブナ科樹木 3 種の着果状況.
- 榎本博之・阪本英樹・黒田明穂・西垣正男・近藤一宏・松宮史和・東 亮太．福井県で確認されたヒトツボクロ（Tipularia japonica Matsum.）の生育地と個体数（2020-2025）の記録 103-119.

6 そ の 他

（1）福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

福井県自然保護関係機関連絡会議は、福井県の自然環境や自然保護に関する調査研究を行っている機関相互の情報交換、共有化を促進し、ネットワークの強化を図るとともに、科学的情報に基づく自然保護の推進に役立てることを目的として設置した組織である。自然保護センター所長が議長となっており、下記の機関が加盟している。年に１回調査研究・活動事例発表会を開催している。

【加盟機関】越前町立福井総合植物園プラントピア、福井市自然史博物館、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所

令和７年度には、下記の事業を実施した。

・福井県自然保護関係機関連絡会議 担当者会議
　日時：令和７年 10 月２日（14:00 ～ 15:00）
　会場：オンライン
　参加者：構成機関より６名出席

・令和７年度　活動事例発表会の開催
　日時：令和８年２月 14 日（13:30 ～ 16:00）
　会場：福井県立図書館　多目的ホール、オンライン
　基調講演：
　「近年、日本に侵入した外来カミキリムシ３種について」（桐山 哲　博士（生物資源科学））
　発表内容：
　「チョウ類の分布記録から見る六呂師高原の草地環境の重要性」（自然保護センター）
　「取組事例紹介：湖と田んぼのつながり再生の取り組み」（海浜自然センター）
　「造林木を守る獣害対策資材の開発について」（総合グリーンセンター）
　「博物館ボランティアと協働で行った花の拡大模型作り」（福井市自然史博物館）
　「ＤＮＡ分析がアシストする魚類のネイチャーポジティブ」（里山里海湖研究所）
　参加者：31 名

・「福井県自然保護関係機関連絡会議 令和８年度行事案内冊子」を発行（電子版のみ）

（2）大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力

自然保護センターでは市町等の要請があった際に、大型野生動物の麻酔による保定および放獣を実施している。令和７年度は１頭の麻酔処置および放獣を実施した。

対応した大型野生動物個体の一覧

実　施　日	市　町	種　　名	成・幼の別	性　別	麻酔処置
10月13日	大野市	ツキノワグマ	成獣	雌	実施

（3） コウノトリの足環装着作業の協力

小浜市、越前、越前町および鯖江市からの依頼に応じ、野外コウノトリのヒナの足環装着作業へ職員を派遣した。

実施日	市町・場所	羽　数	派遣人数（人）
５月22日	小浜市・太良庄	3	1
５月28日	越前市・下中津原	4	2
５月29日	越前町・八田	1	2
６月10日	越前市・安養寺	1	2
６月19日	鯖江市・田村	3	1

（４） 野鳥における高病原性鳥インフルエンザ対応

自然保護センターでは、福井県内で高病原性鳥インフルエンザが発生した場合や、県外においても発生した場所から半径10㎞以内に本県の一部が含まれる場合に備え、野鳥の監視をする体制をとった。また、県内の野鳥における高病原性鳥インフルエンザの早期発見に備え、関係機関と連携し、死亡野鳥の情報収集と監視を実施し、死亡野鳥発見者からの問い合わせに対し、死亡野鳥の種類・数、死体の状況から、環境省マニュアルに基づき簡易検査の必要性を判断し、簡易検査を行う場合は、死亡野鳥を家畜保健衛生所に搬入する体制をとった。

令和７年度は、死亡野鳥搬入事案が１件発生した（令和８年３月８日、カンムリカイツブリ、陰性)。野鳥監視事案は発生しなかった。

（５）職員の派遣

他機関等からの要請に応じ、センターの担当職員を講師として派遣した。

講　師	活動名・演題	場　　所	実施日	主　催　者
佐野　沙樹	食農環境文化概論「福井県の自然環境」	福井県立大学あわらキャンパス	令和7年4月22日	福井県立大学
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市立雄島小学校	令和7年4月28日	坂井市立雄島小学校
佐野　沙樹	北潟湖畔公園オオキンケイギク駆除	北潟湖畔公園	令和7年5月8日	北潟湖自然再生協議会
佐野　沙樹	オオキンケイギク駆除に係る普及啓発チラシ作成実習	福井県立大学あわらキャンパス	令和7年5月8日	福井県立大学
佐野　沙樹	総合的生物多様性管理論「福井県の自然環境」	福井県立大学あわらキャンパス	令和7年5月23日	福井県立大学
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年5月26日	坂井市立雄島小学校
大宮正太郎	オオキンケイギク除去体験	あわら市北潟 北潟湖畔公園	令和7年6月5日	あわら市立北潟小学校
大宮正太郎	水辺の生きものしらべ	越前町立萩野小学校	令和7年6月10日	越前町立萩野小学校
大宮正太郎	外来生物について	あわら市立北潟小学校	令和7年6月12日	あわら市立北潟小学校
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年6月16日	坂井市立雄島小学校
大宮正太郎	坂井市立雄島小学校５年生自然観察会	坂井市三国町安島	令和7年6月20日	坂井市立雄島小学校
佐野　沙樹	陸域環境再生学「自然再生における環境行政の役割」	オンデマンド授業	令和7年7月1日	大阪公立大学
大宮正太郎	浜坂湿地探検ウォーク（自然観察会)	あわら市浜坂	令和7年7月5日	北潟湖自然再生協議会
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年7月7日	坂井市立雄島小学校
大宮正太郎	外来種駆除体験	あわら市赤尾	令和7年7月8日	あわら市立北潟小学校
佐野　沙樹	大野市のホタルと絶滅危惧種	福井県自然保護センター１階展示室	令和7年7月9日	大野市下庄小学校
大宮正太郎	絶滅危惧種と外来生物対策について	あわら市立北潟小学校	令和7年7月10日	あわら市立北潟小学校
佐野　沙樹	福井県のツキノワグマ	勝山市教育会館３階第３研修室	令和7年6月25日	勝山市さわやか大学

佐野　沙樹	温川の水生生物の観察	温川（勝山市荒土伊波）	令和7年10月7日	勝山市立北部中学校 勝山市立荒土小学校
大宮正太郎	アカミミガメを見てみよう！in北潟公民館まつり	あわら市北潟	令和7年10月19日	北潟湖自然再生協議会
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年10月20日	坂井市立雄島小学校
佐野　沙樹	環境講座「地域の協働で守る伝える池ヶ原湿原」	アオッサ６階研修室603	令和7年10月23日	福井市中央公民館
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和7年11月10日	坂井市立雄島小学校
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市立雄島小学校	令和7年12月８日	坂井市立雄島小学校
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市立雄島小学校	令和８年1月26日	坂井市立雄島小学校
大宮正太郎	雄島小学校天池クラブ	坂井市三国町安島	令和８年2月９日	坂井市立雄島小学校
山岸登美子	皆既月食について	福井県児童科学館エンゼルランドスペースシアター	令和８年3月3日	福井県児童科学館エンゼルランド
佐野　沙樹	福井県のツキノワグマ	鯖江商工会議所４階大ホール	令和８年3月6日	鯖江ロータリークラブ

（６）ワークショップ・研究集会等での発表

発表者	集会等の名称	場　　所	実施日	発表テーマ
佐野　沙樹	草原の里交流フォーラム	東京農業大学	令和7年10月14日	ヨシを刈り地域と守る池ヶ原湿原
大宮正太郎	福井県自然保護関係機関連絡会議令和７年度 活動事例発表会	福井県立図書館 多目的ホール	令和８年2月14日	チョウ類の分布記録から見る六呂師高原の草地環境の重要性

（７）委員の受託など

他機関等から委嘱された委員等への就任を受託した。

団体名称	事務局
勝山市「熊」対策連絡協議会	勝山市農林政策課
オオタカ生息環境保全検討委員会	勝山市建設課
北潟湖自然再生協議会	あわら市生活環境課
星のまちおおの推進協議会	大野市観光交流課
大野市環境保全対策審議会	大野市環境・水循環課
白山国立公園生態系維持回復事業 専門委員会	環境省中部地方環境事務所 国立公園課
白山ユネスコエコパーク協議会 関係自治体及び関係団体ワーキンググループ 核心地域・緩衝地域の管理者ワーキンググループ	白山市（石川県） ジオパーク・エコパーク推進課

（8）事業実施において協力・連携した団体

以下の団体・機関等と連携・協力して各事業を実施した。

① 指導普及事業

ア 自然観察会など

福井県自然観察指導員の会、日本野鳥の会福井県、福井ライフ・アカデミー、福井大学理数系教員養成拠点構築事業

イ 天体観望会など

オヤット天文クラブ、八ツ杉天体観測所、奥越星を見る会、アルビレオ天文倶楽部、福井県児童科学館エンゼルランド

ウ 傷病鳥獣救護

福井県獣医師会

エ 里地里山の保全、普及

安島区自治会、天池を守る会、越前松島水族館、坂井市立雄島小学校、小原ECOプロジェクト、勝山市立村岡小学校、環境省白山自然保護官事務所、勝山市未来創造課、勝山市商工文化課、福井県奥越農林総合事務所、平泉寺町まちづくり推進協議会、勝山ファーマ株式会社、ケイテー株式会社、勝山ロータリークラブ、ノーム自然環境教育事務所、福井県自然観察指導員の会、山田兄弟製紙株式会社、勝山市立平泉寺小学校、奥越高原青少年自然の家、福井県奥越高原牧場、福井県立大学、環境省中部地方環境事務所、全国草原の里市町村連絡協議会、環境ふくい推進協議会、大野市環境・水循環課、阿難祖地頭方地区

オ 職員派遣

勝山市立平泉寺小学校、勝山市立村岡小学校、勝山市立荒土小学校、勝山市立北部中学校、勝山市さわやか大学、坂井市立雄島小学校、福井県立大学、北潟湖自然再生協議会、越前町立萩野小学校、あわら市立北潟小学校、福井県児童館エンゼルランド、鯖江ロータリークラブ、大阪公立大学

② 研修養成事業

大野市阪谷小学校、福井県立大学

③ 調査研究事業

日本野鳥の会福井県、福井大学

④ 福井県自然保護関係機関連絡会議事業

福井市自然史博物館、越前町立福井総合植物園、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県里山里海湖研究所

Ⅲ　その他

1　1年のあゆみ

月日　　内容

令和７年

４月24日～５月６日　愛鳥週間用ポスター原画コンクール入賞作品展示（自然保護センター）主催：福井県自然環境課

４月25日～６月29日　企画展「はじめよう！自然体験」（自然保護センター）

４月27日　自然保護センターニュース第17号発行

４月27日　自然観察ウォーク　春の観察ウォーク「野鳥の観察と春の花を愛でる」（六呂師高原周辺）

５月３日～５日　ゴールデンウィーク特別企画「森の材料で工作しよう」（自然保護センター）

５月11日　星空案内人資格認定講座　開講式（自然保護センター）

５月15日　池ヶ原湿原保全活用協議会第１回協議会（勝山市）

５月21日　北潟湖自然再生協議会第１回全体会（あわら市）主催：北潟湖自然再生協議会

５月22日　コウノトリ足環装着作業の協力（小浜市）

５月28日　コウノトリ足環装着作業の協力（越前市）

５月29日　コウノトリ足環装着作業の協力（越前町）

６月10日　コウノトリ足環装着作業の協力（越前市）

６月19日　コウノトリ足環装着作業の協力（越前市）

６月29日　星空案内人資格認定講座　準案内人認定式（自然保護センター）

７月11日～８月31日　ふくい星空写真展（自然保護センター）

７月25日　天文教室　夏の星めぐり（自然保護センター）

７月26日　自然観察ウォーク　夏のライトトラップ昆虫観察会（自然保護センター）

７月27日　自然保護センターニュース第18号発行

７月29日　夏の特別企画「森の材料で工作しよう」（自然保護センター）

８月１日　天文教室　天体望遠鏡を作ろう（自然保護センター）

８月２日　夏休み標本教室　作ってみよう昆虫標本（自然保護センター）

８月12日　特別天体観望会　ペルセウス座流星群を見よう（自然保護センター）

８月20日　北潟湖自然再生協議会　第１回水と生きもの再生部会（あわら市）主催：北潟湖自然再生協議会

８月22日　天文教室　初めての星景写真を撮ろう（自然保護センター）

８月29日　特別天体観望会　旧七夕で星見会（自然保護センター）

９月12日～11月９日　企画展「恐竜の子孫！福井の鳥たち」（自然保護センター）

９月19日　天文教室　美しい星景写真を撮ろう（自然保護センター）

９月21日　タカの渡り観察会in敦賀市手筒山（敦賀市）

９月26日　天文教室　秋の星めぐり（自然保護センター）

10月７日　特別天体観望会　中秋の満月に、にこっ（二胡）（自然保護センター）

10月８日　自然保護センター運営会議（自然保護センター）

10月11日　秋の特別企画「鷹匠デモンストレーション」（自然保護センター）

10月18日　池ヶ原湿原保全活用協議会　ヨシ刈り（勝山市）

10月21日　特別観望会　流れ星を見よう（自然保護センター）

10月28日　自然保護センターニュース第19号発行

11月10日～14日　燻蒸作業のため閉館
11月　　令和６年度年報発行
11月20日　北潟湖自然再生協議会　第２回水と生きもの再生部会（あわら市）主催：北潟湖自然再生協議会
11月28日～令和８年３月29日　ミニ展示「冬に見られるカモのなかまたち」（自然保護センター）
12月５日　天文教室　月の写真を撮ろう（自然保護センター）
12月12日～令和８年３月29日　ミニ展示「自然の中の『うま』」（自然保護センター）
令和８年
１月６日～２月28日　冬の野鳥レストラン（自然保護センター）
１月６日～３月１日　野鳥写真展「野鳥と彩り展」（自然保護センター）
１月６日～３月13日　観察棟冬季休館
１月21日　自然保護センターニュース第20号発行
１月24日・25日　大雪のため臨時休館
２月13日　北潟湖自然再生協議会　第３回水と生きもの再生部会（書面会議）主催：北潟湖自然再生協議会
２月13日　池ヶ原湿原保全活用協議会第２回協議会（勝山市）
２月14日　福井県自然保護関係機関連絡会議・活動事例発表会（福井県立図書館・オンライン併用）
３月20日　福井県自然保護センター研究報告「Ciconia.Vol29」発行
３月22日　星空案内人資格認定講座　案内人認定式（自然保護センター）
３月23日　北潟湖自然再生協議会第２回全体会（あわら市）主催：北潟湖自然再生協議会
３月27日　池ヶ原湿原自然共生サイト認定証授与式（自然保護センター）

2　施設利用実績

①　利用実績表

ア　本館・野外（自然観察の森ガイド等）

区　　分		団　体（人）	一　般（人）	合計人数（人）
本　　館		88団体 2,758	12,078	14,836
内訳	本館見学	53団体 1,655	11,886	13,541
	自然観察の森ガイド等	35団体 1,103	192	1,295

イ　観察棟（天体観望会およびプラネタリウム等）

区　　分		団　体（人）	一　般（人）	合計人数（人）
観　察　棟		76団体　2,884	2,811	5,695
内訳	天体観望会	35団体　1,299	721	2,020
	プラネタリウム	40団体　1,565	799	2,364
	冬の星空ガイド	1団体　　20	276	296
	特別観望会・天文教室		183	183
	昼の天体観望会		725	725
	館内見学		107	107

②　団体利用内訳

ア　本館

月	団体数（団体）	人数（人）	団　体　人　数　内　訳（人）							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	97	0	70	27	0	0	0	0	0
6	11	572	6	31	501	0	0	0	0	34
7	15	460	58	156	59	42	0	0	20	125
8	10	272	233	0	0	0	0	0	0	39
9	2	23	16	7	0	0	0	0	0	0
10	5	105	50	21	0	0	34	0	0	0
11	1	7	0	7	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	2	49	0	7	42	0	0	0	0	0
2	2	62	62	0	0	0	0	0	0	0
3	1	8	0	8	0	0	0	0	0	0
計	53	1,655	425	307	629	42	34	0	20	198

イ　野外（観察の森ガイド等）

月	団体数（団体）	人数（人）	団体人数 内訳（人）							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	5	151	0	151	0	0	0	0	0	0
6	5	122	5	99	18	0	0	0	0	0
7	7	299	135	53	0	0	0	0	19	92
8	3	113	70	0	0	0	0	0	43	0
9	2	53	0	53	0	0	0	0	0	0
10	4	178	0	142	36	0	0	0	0	0
11	1	7	0	7	0	0	0	0	0	0
12	1	9	9	0	0	0	0	0	0	0
1	2	13	0	7	0	0	0	0	0	6
2	3	99	0	58	0	0	0	0	0	41
3	2	59	52	7	0	0	0	0	0	0
計	35	1103	271	577	54	0	0	0	62	139

ウ　天体観望会（夜・昼）

月	団体数（団体）	人数（人）	団体人数 内訳（人）							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	24	0	24	0	0	0	0	0	0
6	6	312	0	48	214	0	50	0	0	0
7	6	189	121	21	27	0	0	0	20	0
8	10	311	205	0	0	0	0	9	57	40
9	3	114	98	0	0	0	0	0	0	16
10	5	246	0	0	102	0	144	0	0	0
11	1	12	0	0	0	0	0	0	0	12
12	2	61	0	0	40	0	0	0	0	21
1	冬季観察棟休館									
2										
3	1	30	30	0	0	0	0	0	0	0
計	35	1299	454	93	383	0	194	9	77	89

エ　プラネタリウム

月	団体数(団体)	人数(人)	団体人数 内訳（人）							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	2	51	0	24	27	0	0	0	0	0
6	10	515	6	41	418	0	50	0	0	0
7	10	318	121	92	85	0	0	0	20	0
8	7	203	143	0	0	0	0	0	0	60
9	2	84	16	0	0	0	68	0	0	0
10	8	354	136	0	74	0	144	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	1	40	0	0	40	0	0	0	0	0
1	冬季観察棟休館									
2										
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	40	1,565	422	157	644	0	262	0	20	60

オ　冬の星空ガイド

月	団体数(団体)	人数(人)	団体人数 内訳（人）							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	冬の星空ガイドは冬期観察棟休館時のみ開催									
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	20	20	0	0	0	0	0	0	0
3										
計	1	20	20	0	0	0	0	0	0	0

3　運営会議

・福井県自然保護センターを効率的に運営するために、運営会議を設置した。

福井県自然保護センター運営会議委員　　任期　令和７～８年度

	氏　名	勤　務　先　・　所　属　団　体	専門分野等
会 長	保科　英人	福井大学教育学部 教授	昆虫
副会長	斎藤　寿子	福井県自然観察指導員の会 副会長	植物
委 員	小嶋　明男	日本野鳥の会福井県 代表	鳥類
委 員	坂本　道子	ノーム(GNOMES)自然環境教育事務所 副代表	自然教育
委 員	山本　俊夫	奥越星を見る会 会長	天文
委 員	大野　優月	大野市地域経済部 観光交流課　主査	行政
委 員	廣澤　芽依	大野市教育委員会こども支援課　主事	幼児教育
委 員	木下　恵美	勝山市教育委員会こども課　幼児教育　係長	幼児教育
委 員	芦原　邦弘	大野市阪谷小学校　校長	学校教育
委 員	本田　秋美	勝山市荒土小学校　校長	学校教育

※所属等は令和８年３月末現在

4　関係条例・規則

○福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
平成二年三月二十七日
福井県条例第四号

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例を公布する。

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例

（設置）
第一条　自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与するため、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）を設置する。
（位置）
第二条　センターは、大野市に置く。
（業務）
第三条　センターは、次に掲げる業務を行う。
一　自然の観察、研究等のために必要な施設または設備の提供
二　自然の観察、研究等のために必要な助言または指導
三　自然に関する研修会、講習会等の開催
四　自然に関する資料の収集、保管および展示
五　自然に関する調査および研究
六　前各号に掲げるもののほか、センターの設置の目的にふさわしい業務
（職員）
第四条　センターに、所長その他必要な職員を置く。
（施設等の使用の承認）
第五条　センターの施設または設備を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。
（使用料）
第六条　センターの施設または設備を使用する者は、別表に掲げる使用料を納付しなければならない。
２　既に納付した使用料は、還付しない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。
（使用料の減免）
第七条　知事は、特に必要があると認めるときは、使用料の全部または一部を免除することができる。
（委任）
第八条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
附　則
この条例は、平成二年四月一日から施行する。
附　則（平成八年条例第一二号）
この条例は、平成八年四月一日から施行する。
附　則（平成一一年条例第一四号）
この条例は、平成十一年四月一日から施行する。
附　則（平成二六年条例第一号抄）
（施行期日）
１　この条例は、平成二十六年四月一日から施行する。
附　則（令和元年七月三〇日条例第四号抄）
（施行期日）
１　この条例は、令和元年十月一日から施行する。

別表（第六条関係）
（平八条例一二・平一一条例一四・平二六条例一・一部改正）

一　施設

区　　分	金　　額		
	９時から12時まで	12時から17時まで	９時から17時まで
レクチャーホール	2,830円	4,610円	7,440円
会　議　室	750円	1,360円	2,120円
工　作　室	1,470円	2,300円	3,770円

二　設備

区　　分	金額1回（5時間以内）につき
ワイヤレスマイク	200円
カセットテープレコーダー	200円
スライド映写機	540円
十六ミリ映写機	2,930円
ビデオテープレコーダー	1,360円

○福井県自然保護センターの管理運営に関する規則
平成２年３月27日
福井県規則第４号
福井県自然保護センターの管理運営に関する規則を公布する。

福井県自然保護センターの管理運営に関する規則

（趣旨）
第一条　この規則は、福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例（平成二年福井県条例第四号。以下「条例」という。）第八条の規定に基づき、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）の管理および運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（開館時間および入館時間）
第二条　センターの本館の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。ただし、入館時間は、午後四時三十分までとする。
２　センターの観察棟の開館時間は、午前九時から午後九時三十分までとする。ただし日曜日の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。
３　福井県自然保護センター所長（以下「センター所長」という。）は、必要があると認めるときは、前二項の開館時間および入館時間を変更することができる。
（休館日）
第三条　センターの休館日は、次に掲げる日とする。ただし、第一号または第二号に掲げる日が七月二十一日から八月三十一日までの日である場合には、休館日としないものとする。
一　月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）第三条に規定する休日（以下「休日」という。）に該当する場合を除く。）
二　休日の翌日（土曜日、日曜日または休日に該当する場合を除く。）
三　十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に該当する場合を除く。）
２　センター所長は、必要があると認めるときは、前項の休館日を変更することができる。
（平一三規則二九・平一五規則一四・一部改正）
（入館の拒否）
第四条　センター所長は、センターに入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、入館を拒否することができる。
一　他人に危害を加え、または迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
二　施設または展示品を損傷するおそれのあるとき。
三　前二号に掲げるもののほか、センターの管理上支障があると認められる行為をするおそれのあるとき。
（入館者の遵守事項）
第五条　センターに入館した者（以下「入館者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一　展示品（特に指定した展示品を除く。）に触れないこと。
二　展示品の近くで、インキ、墨等を使用しないこと。
三　承認を受けないで展示品の構造、模写または撮影をしないこと。
四　所定の場所以外で喫煙または飲食をしないこと。
五　他人に危害を及ぼし、または迷惑となる行為をしないこと。
六　その他係員の指示に従うこと。
２　センター所長は、入館者が前項の規定に違反したとき

は、その者に対して退館を命じ、または必要な措置をとることができる。
（施設等の使用の承認）
第六条　条例第五条の規定により、センターの施設または設備の使用の承認を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用承認申請書（様式第一号）をセンター所長に提出しなければならない。
２　センター所長は、前項の申請に対し使用を承認したときは、福井県自然保護センター使用承認書（様式第二号）を交付する。
（使用者の遵守事項）
第七条　センターの施設または設備を使用する者（以下「使用者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一　承認を受けた使用内容を変更しないこと。
二　センターの施設または設備をき損し、または汚損しないこと。
三　使用の承認を受けた施設もしくは設備を転貸し、または当該承認に基づく権利を譲渡しないこと。
四　館内の秩序または風俗を乱す行為をしないこと。
五　承認を受けないで作品、物品等の販売、寄附金の募集、立看板の掲示その他これらに類する行為をしないこと。
六　前各号に掲げるもののほか、センターの管理上支障がある行為をしないこと。
２　センター所長は、使用者が前項の規定に違反したときは、センターの使用の承認を取り消すことができる。
３　使用者は、センターの施設または設備の使用を終了したときは、原状に回復しなければならない。
（使用料の還付）
第八条　条例第六条第二項ただし書の規定により、次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を還付することができる。
一　災害その他不可抗力により、施設または設備の使用ができなくなったとき。
二　その他センター所長がやむを得ない事由があると認めるとき。
２　使用料の還付を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料還付申請書（様式第三号）に領収書または福井県自然保護センター使用承認書を添えてセンター所長に提出しなければならない。
（使用料の減免）
第九条　条例第七条の規定により、使用料を減免することができる場合およびその減免の額は、次に掲げるとおりとする。
一　県、県内の市町または県内の小学校、中学校、高等学校もしくは特別支援学校が主催する県民のための自然教育、自然保護等に関する事業に使用するとき　使用料に相当する額
二　その他センター所長が特に必要があると認めるとき　センター所長が必要と認める額
２　前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料減免申請書（様式第四号）をセンター所長に提出しなければならない。
３　センター所長は、前項の申請に対し減免を承認したときは、福井県自然保護センター使用料減免承認書（様式第五号）を交付する。
（平一八規則九・平一九規則二三・一部改正）
（施設等の損傷または滅失の届出）
第十条　入館者および使用者は、センターの施設、設備等を損傷し、または滅失したときは、遅滞なくその旨をセンター所長に届け出て、その指示に従わなければならない。
（その他）
第十一条　この規則で定めるもののほか、センターの管理および運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。
附　則
この規則は、平成二年四月一日から施行する。
附　則（平成三年規則第一九号）
（施行期日）
１　この規則は、公布の日から施行する。
（様式に関する経営措置）
２　この規則による改正前の様式に基づいて作成した用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。
附　則（平成一三年規則第二九号）
この規則は、平成十三年四月一日から施行する。
附　則（平成一五年規則第一四号）
この規則は、平成十五年四月一日から施行する。
附　則（平成一八年規則第九号抄）
（施行期日）
１　この規則は、平成十八年三月三日から施行する。
附　則（平成一九年規則第二三号抄）
（施行期日）
１　この規則は、平成十九年四月一日から施行する。
附　則（令和三年三月三一日規則第二四号）
（施行期日）
１　この規則は、令和三年四月一日から施行する。
（経過措置）
２　この規則による改正前のそれぞれの規則に定める様式による用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

様式第１号（第６条関係）（平３規則１９・一部改正）

年　　月　　日

福井県自然保護センター所長様

申請者　住所
氏名
［法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名］

福井県自然保護センター使用承認申請書

福井県自然保護センターの施設（設備）を使用したいので、次のとおり申請します。

事　業　名				
主催者名	所在地		電　話	
	名　称		代表者	
使用施設（設備）				
使用の概略	事業の概要			
	入場料徴収の有無	有　　無（料金　　円）		
	推定入場人員数			
	設置する造作物			
使用期間	年　月　日　時　分から 年　月　日　時　分まで			

様式第４号（第９条関係）

年　　月　　日

福井県自然保護センター所長様

申請者　住所
氏名
［法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名］

福井県自然保護センター使用料減免申請書

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例第７条の規定により、次のとおり使用料の全部（一部）を免除してくださるよう申請します。

減免申請の理由	
事　業　名	
使用施設（設備）	
使用期間	年　月　日　時　分から 年　月　日　時　分まで
減免を受けようとする額	円

発　行　日　令和８年11月

編集・発行　福井県自然保護センター
〒912－0131
福井県大野市南六呂師169－11－２
電話　0779－67－1655
Ｆａｘ 0779－67－1656

印　　刷　㈱松浦印刷所
電話　0779－66－2357

26.11.14350

令和7年度

年報

福井県自然保護センター



福井県自然保護センター